広告

DēLonghi
Better Everyday

デロンギ・オイルヒーター

快適な「体感温度」を得るために

「これまでの暖房の多くは、『部屋の温度を上げる』ことを前提にしていたが、
これからは違う視点で暖房を考える必要があるのではないか」
そのように唱える椙山女学園大学の藏澄美仁教授が注目するのは、オイルヒーター。
冬をあたたかく過ごすうえで活用したいオイルヒーター、その魅力とは。

体が総合的にあたたかさを感じる心地よい空間づくりを目指して

部屋の温度ではなく体感温度に着目した室内環境にする

暖房の設定温度を上げても、あまりあたたかさを感じないことはありませんか。室温を上げれば部屋全体があたたまると思いがちですが、実はそこには落とし穴があります。熱の受け渡しにはさまざまな種類があり、条件によっては伝わるスピードも効率も変わってくるからです。

熱は「対流」「伝導」「輻射（ふくしゃ）」によって運ばれます。対流とは流体を介して熱を伝える方法で、生活空間では主に空気の動きが関係してきます。伝導とは個体を介して熱を伝える方法で、物に触れる面積が大きければ大きいほど、熱の伝わる量も多くなります。

一方輻射は、赤外線により熱を伝える方法です。対流や伝導と違って、伝達物体を介さなくても熱を移動させることができます。また、**対流と伝導は、熱の交換量が温度差に比例するのに対して、輻射の場合、それぞれの物質の温度を4乗したときの差に比例します。つまり、効率よく熱を伝えることができるのです。**

通常、部屋の中は空気よりも壁や床などの表面温度の方が低くなっています。また、熱には高い方から低い方へと移動する性質があります。そのため、対流によってあたためられた空気が体に熱を伝えても、輻射によって室温よりも低い壁や床に体の熱が奪われてしまうのです。先ほどの、設定温度を上げてもあまりあたたかさを感じないことがあるというのは、このような仕組みによるものです。身近な例では、底冷えも同じ原理ですね。

効果的に暖をとるには、室温だけに注目するのではなく、部屋の構成面全体をあたためる方法を考える必要があります。つまり、**「部屋の温度を上げる」という考え方から「体感温度を上げる」という考え方にシフトする必要があるのです。**

体感温度とは、体が総合的に感じている温度のことで空気の温度ではありません。体感温度を左右するものには、心理的な要因、物理的な要因があり、これらが複雑にからみあって不快か、快適かを感じています。

心理的な要因には、たとえば部屋を暖色系のしつらえにするなど、五感に関わるものがあります。生理的な要因は健康状態とも深く関係してきます。物理的な要因には、気流、気温、熱輻射量、熱伝導量、湿度があります。着衣量や活動量（代謝）によっても変わりますが、体感温度が快適な状態とは、体とまわりの環境との熱交換のバランスが落ち着いた状態を指します。

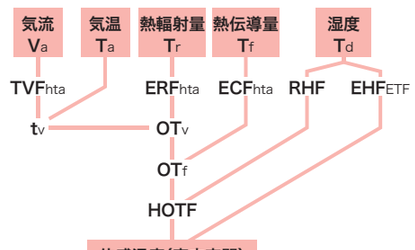
昔ながらの暖房を現代に応用したオイルヒーター

オイルヒーターは、輻射熱を利用した暖房です。赤外線によりオイルヒーターに面した物体に熱を伝えるということは、床や壁と体との温度差が少なくなるということですから、体から奪われる熱の量も減ります。また、オイルヒーター自体も発熱体なので、ヒーター本体に接触した空気もあたためられます。

最近は高気密・高断熱の家も増えてきましたが、いくら高気密・高断熱でも、トイレに行くには部屋の扉を開けなければなりませんし、キッチンでは換気する必要があります。つまり、部屋のすき間から熱がもれることを前提に、暖房を使う環境を考える必要があるのです。

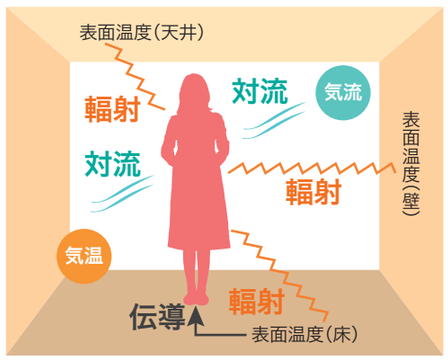
昔の人たちはすき間のある家でも火鉢などにより効果的に暖をとってきました。火鉢もまた物体に直接熱を伝える輻射熱による暖房です。**オイルヒーターは、昔ながらの生活の知恵を現代に応用した暖房ということができるかもしれません。**（談）

体感温度を感じる要素とその系譜



体感温度は、気温だけではなく、さまざまな要素が複合的に絡み合って感じる。系譜に示した五つの要素の他、着衣量や活動量（代謝）によっても変わる

室内における熱の伝わり方



椙山女学園大学　生活科学部教授
藏澄美仁先生

くらずみ・よしひと／1961年生まれ。豊橋技術科学大学大学院修了後、京都府立大学、広島国際大学などを経て、2008年から現職。人間の感覚を建築環境工学に取り入れ、快適性と省エネルギーの関係や、体感温度などを専門に研究している。博士（工学）。

New

●ECO運転モード
自動で最適な電力レベルを選択しながら、設定温度よりわずかに控えめな温度で運転。消費電力を抑えられます。

●温度を自動コントロール
温度センサーが周辺温度を感知し、自動で電源をON／OFFしながら室温をコントロールします。温度設定は10～28度の間で選択可能です。

●デジタル表示
温度設定や運転モードが一目で分かるデジタル表示。4段階で明るさが調整できるので、就寝を妨げません。

●リモコン付き
離れていても操作できるリモコン付き。本体にセットできるので邪魔になりません。

「デロンギ ドラゴン デジタル」TDD0915W
コンパクト設計でありながら、表面積が従来比2倍、表面温度約60度のX字型フィンを採用。イタリアのデザインが集約されたデロンギ オイルヒーターの最上位モデル。
●適用畳数：4～10畳　●9枚フィン
●1500W（強1500／中900／弱600）

希望小売価格
64,800円（税込み）

100年以上の歴史をもつイタリアの家電メーカー、デロンギ

デロンギは1902年、イタリア北部トレビソの街でうまれた家電メーカーです。ポータブル型オイルヒーターを世界で初めて開発し、現在では約70カ国において累計約5,000万台のオイルヒーターを販売するトップメーカーになりました。その他にも、ボタン一つで挽（ひ）きたてのエスプレッソが楽しめる全自動エスプレッソマシンや、キッチンをスタイリッシュに彩る電気ケトル等のキッチン家電、本格イタリア料理の調理を可能にするコンベクションオーブン等、イタリアのライフスタイルをご家庭にお届けする製品を多数そろえています。

本広告内容に関するお問い合わせ専用ダイヤル［受付時間 9:30～18:00］ 0120-505-539
デロンギのオイルヒーターは、全国の有名家電店で販売しています。詳しくはお近くの販売店にお問い合わせください。
www.delonghi.co.jp デロンギ 検索
デロンギ・ジャパン株式会社